

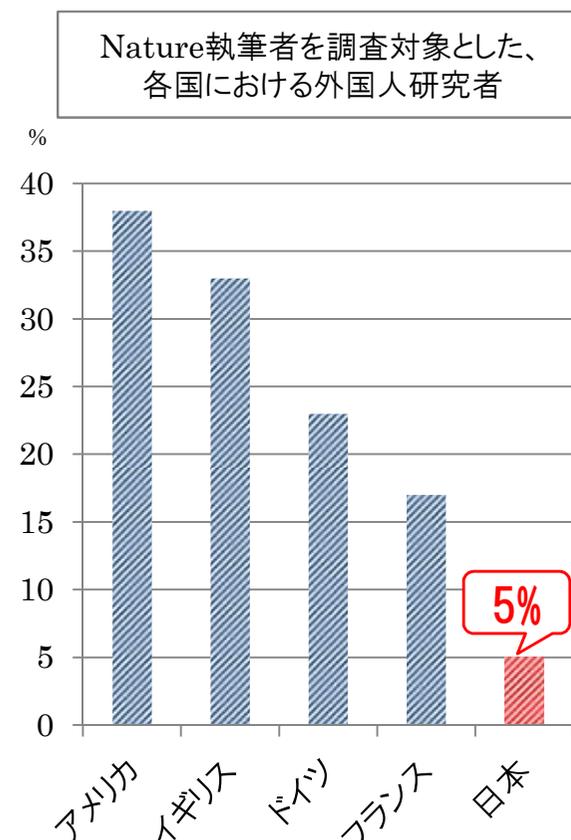
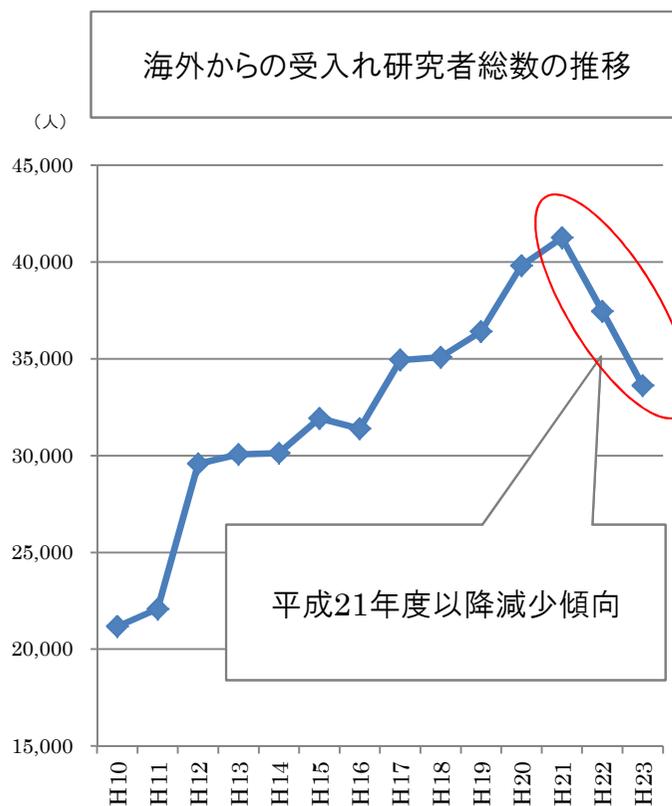
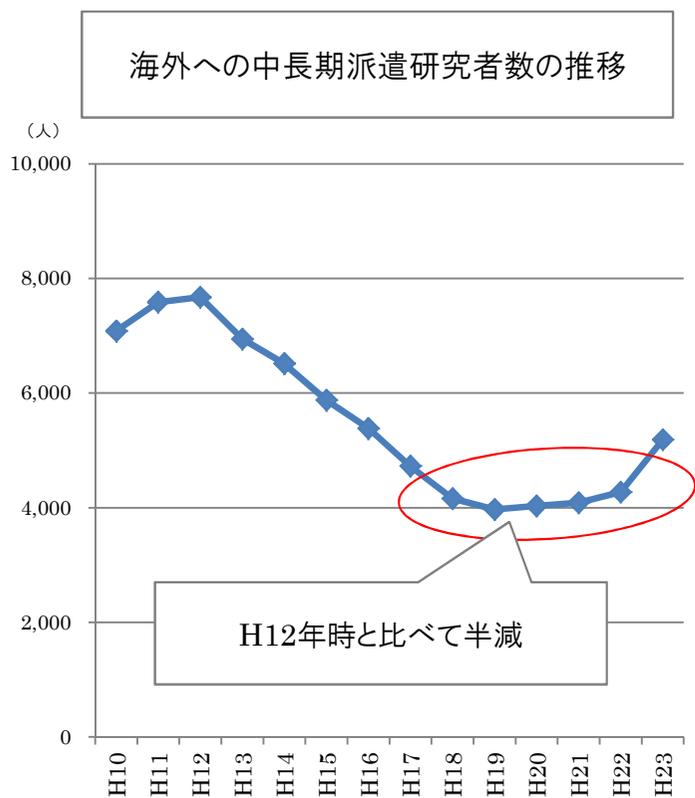
国際的な人材・研究ネットワークの強化に向けて

問題点

- 科学技術イノベーションの“鍵”は、優れた研究人材の獲得
- 国際的に優秀な人材の激しい獲得競争
- 国際的な頭脳循環における我が国の相対的な地位は低下
- 周辺生活環境も含めた研究環境の国際化に出遅れ

✓ 我が国の研究現場の国際化は諸外国の後塵

✓ 国際的な優秀な人材獲得競争に出遅れ



（出典：平成24年度 国際研究交流状況調査(文部科学省) ※中長期派遣は1ヶ月以上の派遣を指す）

（出典：Nature 490, 326-329）

大学等における研究者の派遣・受入れ(中長期)の状況(H24年度)

平成24年度国際研究交流状況調査
を元に作成

【中長期派遣者数(割合)】

大学等における
全体研究者数:258,279人※

【中長期受入者数(割合)】

【13,03人(1.72%)】

教授
(研究者数:75,560人)

【1,859人(2.46%)】

【10,99人(2.46%)】

准教授
(研究者数:44,648人)

【1,569人(3.51%)】

【2,271人(1.67%)】

ポスドク・助教等
(研究者数:135,829人)

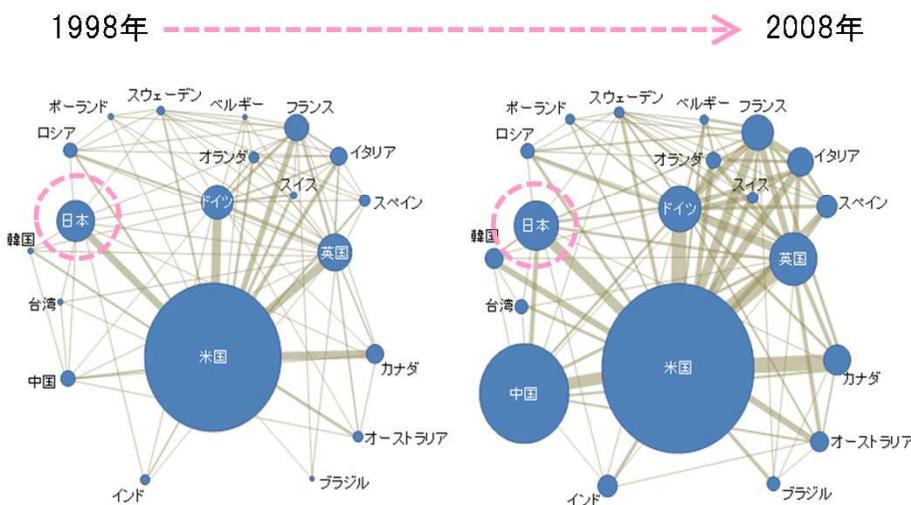
【5,344人(3.93%)】

※一部の職位が不明のため、職位内訳の合計は全体研究者数と一致しない。

✓ 共同研究をはじめとする外国人研究者とのつながりが相対的に低下

✓ 国際的な頭脳循環の流れに出遅れ

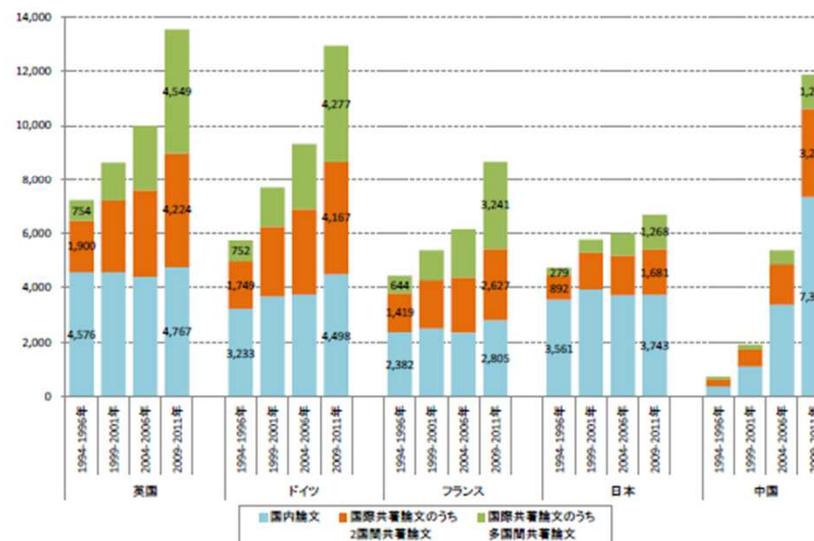
科学文献の出版数と共著関係の推移



●の大きさ: 出版物の数、 —の太さ: 共著関係の強さ

出典: OECD, 2010

質の高い論文数における国内論文数と国際共著論文数の推移



出典: 科学研究のベンチマーキング2012(科学技術・学術政策研究所)